様式４_助成事業実施報告書

2019年8月31日

助成事業実施報告書

団体名　　益城町未来トーク事務局

代表者・役職名　氏名　　代表・戸上雄太郎

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

益城町の経験を伝える間借りの震災復興ミュージアム

2. 実施団体の概要（創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで）

高校生～30 代の若者を中心に「町の復興のために自分達に出来ること」を話し合うワークショップをきっかけに立ち上がった任意団体です。町を元気にするイベントの開催や、特産品の開発、コミュニティスペースの運営などに取り組んでいます。

3. プロジェクトの目的とその背景（※応募申請書に記載のものでも可）　250文字程度まで

平成 28 年熊本地震で学んだ貴重な教訓や町の現状、復興に向けた取り組みを全国や後世に伝えるため、地域住民の方々と協力して公民館やイベントスペース等のスペースを一時的に間借りした「震災復興ミュージアム」を作りあげ、震災の経験を伝えることで、多くの方々に災害への「備え」を考えてもらう機会を創出します。

4. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可）　300文字程度まで

被災概要や避難所の状況、復興に向けた取り組みなどを伝える展示用パネルの作成や、被災の状況を臨場感を持って伝えるため被災した建物や場所を VR で体験できる映像制作、震災関係資料の展示などを行います。

語り部や地域住民には無償で貸し出し、様々な場所でパネル展示・映像上映などをしてもらうことで臨時の震災復興ミュージアムを開いてもらいます。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』　300文字程度まで

防災意識が必ずしも高いわけではない人達へのアプローチを意識し、多くの人が集まるイベントのスペースの一角を間借りし、啓発的にパネル展示等を実施する等の工夫をしました。

プロジェクトを実施したのは計3回と当初予定を下回りましたが、防災啓発イベントに合わせて実施した際には約 200 名/日が訪れる等、一定の人数に対してアプローチが出来ました。 また、間接的ではありますが、マスコミ取材等もあったことからインターネットで当団体の存在を知った県外の複数の団体から視察依頼が舞い込むなど、事業の枠を超えた効果が表れつつあります。

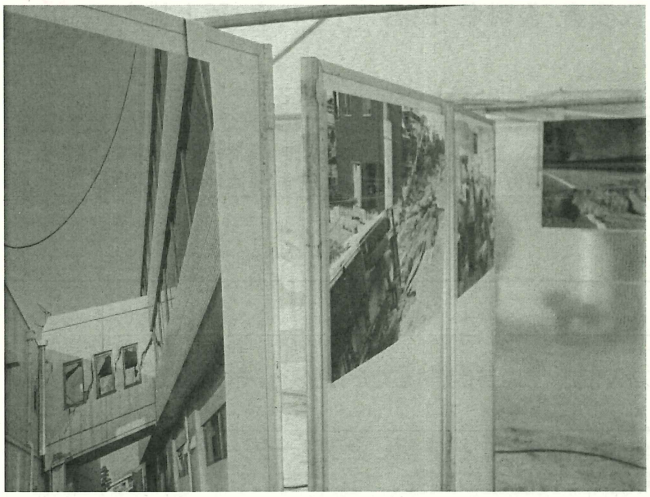
6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など　300文字まで

当団体のメンバーは基本的に仕事や学校の合間を縫って休日等にボランティアとして活動していますが、主要メンバーの本業が多忙となってしまったことや自己資金分の確保が困難になったことなどから、当初希望していた規模での事業実施が出来なかったことが悔やまれます。ただし、当事業によりパネルや映像等が制作できたため、今後も自主事業として活動を展開することが可能となりました。今後も引き続き自主的に活動を継続していく予定です。

7. 参考資料

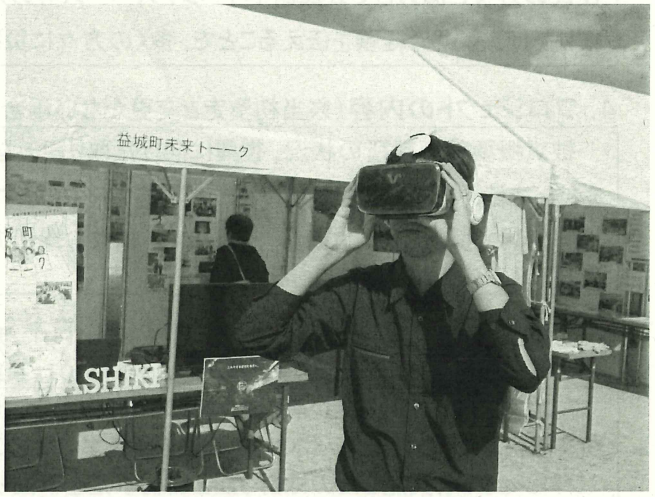
支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。	参考資料あり・特になし

パネル展示の様子



マスコミ取材の様子

被災した建物を 360 度カメラ記録し VR 映像を制作

※将来、貴重な映像資料となることを期待

VR 映像を専用ゴーグルで視聴する様子